

日の出小学校



日の出小学校は、「ひとりでできる子」「のびのび明るい子」「できるまでがんばる子」を目標に、毎日元気いっぱい過ごしています。本年度は、これまで、子どもたちが健康で安全に生活するための取り組みを行ってきました。



バトンタッチ運動

「健康な永久歯にバトンタッチ」を合言葉に、子どもたちが自ら学ぶ歯科保健教育活動に学校・家庭・歯科医師・歯科衛生士が協力して取り組んできました。各学年の発達段階に合わせて、歯や口の中の健康について、分かりやすく学ぶことができました。



交通安全教室

愛知県警あゆみの方を講師にお迎えし、3・4年生を対象に交通安全教室を行いました。安全な自転車の乗り方を、「自転車は左から乗る」など、「5つの左」をキーワードに教えていただきました。また、「とまる・みる・まつ」ことの大切さを学びました。



田植え体験

5年生が農業体験として、苗を投げ入れる田植えを体験しました。稲刈りの時期が楽しみです。



「戦争と子どもたち」

弥富北中学校 小川 遥輝

【親元を離れた子どもたち】

昭和19年、空襲が激しくなるとともに子どもたちの生活は一変しました。翌年、日本政府は「学童疎開」を実施し、3年生以上の子ども約2万3千人は山間部へと疎開することとなりました。その内、親戚などを頼って縁故疎開した子どもは約1万9千人、集団疎開は9千人であったそうです。また、13歳以上は「少年兵」といい、陣地を守るなどして軍事活動に強制動員されたりしました。当時、少年兵は「捨て駒」として扱われることもあり、死亡率の高い個人携帯対戦車兵器の射手などに従事させられていたそうです。

【今とは違う教育制度】

さまざまな資料によると、戦時中の学校は現在の学校とは別物だったようです。

当時の小学生は「少国民」と呼ばれ、国民学校で大人になったら「兵隊さん」になること、国のために働くことなどを目的とした「軍国教育」を受けていました。「国のために死ぬこと」が素晴らしいこととされ、「日本が絶対に勝つ」と教えられていました。教科書なども戦争を中心としたものとなっていました。学芸会や運動会の競技なども、兵隊さんが主人公のものや訓練をまねたものが多くなっていったそうです。

【広島研修で学んだこと】

今の自分の年齢を当時に当てはめてみると、「少年兵」として活動としている年齢だと思っています。自分が戦場に立っているかもしれないと考えるとすごく怖いし、絶対に嫌です。しかし、今も世界のどこかで戦争や紛争が起きています。そこでは、多くの子どもたちが苦しんでいます。中には戦いに巻き込まれている子どももいるかもしれません。とても悲しい気持ちになります。「助けたい」と思うけれど、自分たちの力だけではどうしようもないこともあります。戦争が起きてしまった過去は変えることができません。だからこそ、「戦争はダメなんだ」と次の世代に語り継いでいくことによって、少しでも未来を平和な世界に変えていけたらと強く思います。



「世界を知り、視野を広げる」

弥富北中学校 鈴木 彩月

【国際協力体験談を聞いて】

JICAの方から、国際協力体験談として青年海外協力隊の派遣先の仕事について聞きました。今回聞いたのは、パラグアイに派遣された方の体験談でした。そこでは、農家の人たちが稼がず少ない人たちのために仕事を考え、その手伝いをしたとのこと。お話をしてくださった方は、「現地の人たちとたくさん交流し、相手の人たちの文化や生活にふれることで、自分も成長することができた」と話していました。

世界の人々のために世界中を飛び回り、笑顔を増やしていく。そんな仕事に魅力を感じました。

【被爆ピアノの音色を聞いて】

私は被爆ピアノの音色を聞いてとても感動しました。「なんてきれいな演奏なんだろう」「なんて素敵な音なのだろう」と。言葉では表現できないくらいたくさんの感情が押し寄せてきて、声も出ませんでした。私は以前、ピアノを習っていましたが、それとはまったく違う楽器のようでした。

原爆投下直後の苦しみや悲しみの気持ちや、それでも困難を乗り越えようと必死にもがく人々の気持ちなど、美しい被爆ピアノの音色からそれらを感じることができました。「被爆したピアノ」の美しい音色と、被爆された方々の思いが混ざり合っているからこそ、感動的な演奏になったのだと思います。

また、被爆ピアノの演奏に合わせて歌ってくださった方の声にも力がこもっていて、とても心に残るものでした。この「被爆ピアノ演奏」は、五感全てで、さまざまなことを感じる事ができた貴重な時間となりました。

【過去を知る】

私は広島研修を通して、戦争の悲しみや苦しみを学びました。同時に、戦争は人間の最も愚かな行動だとも思いました。戦争の悲しみや苦しみを体験し、その中で生き延びた人たちの思いを次の世代に伝えていかなければならないと強く思いました。二度と同じ過ちを繰り返してはならないとも改めて強く思いました。

私たちは戦争とは縁遠い時代に生まれ、戦争を想像することすらできないのも現状です。だからこそ、私たちは真剣に過去と向き合うことが大切なのではないでしょうか。「今、幸せな生活を送ることができているから」「今、平和な世界だから」と思い、過去から目を背けてはいけません。それでは、いつか同じ過ちを犯してしまうかもしれません。今の私たちにできることは、「戦争を知り、それを忘れないこと」だと思います。今回学んだことを次の学習につなげ、私たちが責任をもって次の世代に伝えていきたいと思います。

